「住みごたえのある町」をつくる
ー大阪・ハンブルクにおける市民文化に基づくエリアマネジメントー

大場 茂明（文学研究科）

本研究プロジェクトの背景 ①

◎人口減少や高齢化にともなう**都市の縮退(Shrinking City)現象**への対応 ・・・・先進工業国共通の焦眉の政策課題

- 都市規模の**創造的縮小(smart decline)**政策
  新たなサービス業、知識産業、文化産業のインキュベーターとしての都市

- 旗艦(Flagship）型プロジェクトの限定的波及効果
  隣接地域間で格差拡大
  ↓
  地区レベルでの活性化施策の必要性

本研究プロジェクトの背景 ②

◎ハンブルクを大阪の事例と比較する意味：

＊大阪との共通性

《国内有数の商業・港湾都市》

《市民文化をリード》

＊先進性

《ドイツにおける衰退地区再生プログラムの先駆け》

1990年代以来の豊富な事業経験

→<u>比較対象として最適</u>

本研究プロジェクトの背景 ③

◎文学研究科の実績

21世紀COEプログラム

「都市文化創造のための人文科学的研究」(平成14～18年度)

大阪市立大学プロジェクト研究

「大阪市とハンブルク市をめぐる都市・市民・文化・大学」(平成14～16年度)

→多くの教員・若手研究者をハンブルク大学に派遣

上方文化講座の実施 (平成16年度～)

→従来から市民文化に深く関わる

本研究プロジェクトの目的

◎地区に関わる様々なアクター（行政、地元企業・団体、住民．．）による
文化活動の可能性
・新たな都市居住の魅力創出
・地区の再生・発展に寄与

↓

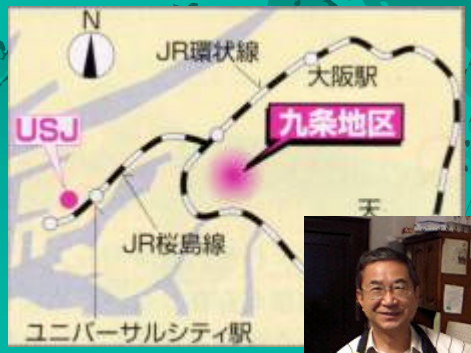
市民文化を基礎に置いた「住みごたえのある」まちづくりモデルの提案

事例地区の選定

◎商工住混合の既成市街地
（港湾に近接したインナーシティ）

＊<u>九条地区</u>（大阪市西区）
・市内の典型的な商工住混合地区
（臨海工業地帯のバックヤードとして発展）
・NPO「大阪・九条下町ツアー」が活動
（1997年～）

＊<u>St. Pauli地区</u>（ハンブルク市）
・歓楽街から活気に満ちた盛り場へ変貌
・地区再開発プログラムが始動
（1980年代～）



事例地区でのフィールドワーク

◎文字・音声・映像による記録

・<u>有形・無形の地域資源</u>

地区形成の歴史

町工場・商店街の活気

夏祭りの賑わい．．．．

・<u>地区を基盤とする各アクターによる文化活動</u>

本研究プロジェクトの特色

1．日独専門家グループによるチーム編成

日本側・・・映像・音楽・演劇等、文化の専門家

ドイツ側・・地区再生・コミュニティ開発の専門家

→市民文化とエリアマネジメントとの協働

2．両市関係機関との連携

大　阪　市・・・・・大阪市立住まい情報センター

「すまい・まちづくり・ネット」

ハンブルク市・・・都市更新・都市開発公社(steg)

事業経験の蓄積と情報発信

本研究プロジェクトの特色

3．映像・音楽・演劇など、文化（ソフトな施策）に重点を置いた地区の活性化モデルの提言

本研究の方法

[平成21年度]

- 「九条活性化ユニット」（仮称）の結成
  現地調査による地域資源や文化活動の記録（映像化を含む）

- 大阪・ハンブルクにおける定例研究会の組織
  まちづくり団体、自治体職員、研究者を招聘し、まちづくりへの市民文化の活用を議論
  研究会の発表・討論内容をWebにて公開

- ハンブルク訪問（11月）
  九条地区ほか大阪での取組みの紹介
  再生事業地区の現地視察と映像撮影
  ドイツ側研究者との意見交換

- 成果の中間報告（22年3月）
  報告会（九条）、展示（大阪市立住まいの情報センター）
  →内外のまちづくり事業に関わる情報交換
  新たな調査地区の選定

本研究の方法

[平成22年度]

- 第1回シンポジウムの開催（夏期：大阪）
  まちなか居住・住環境をテーマに討議
- 報告会の開催（３月：大阪市立住まいの情報センター）
  ハンブルクで撮影した映像
  シンポジウムの成果

[平成23年度]

- 第2回シンポジウムの開催（夏期：ハンブルク）
  市民文化をテーマに開催

＊共同研究の成果とりまとめ
文学研究科選書／同叢書の一冊として刊行

本研究に期待される成果

◎市内各地の取組みとハンブルクでの実践とをつなぐ

- ハンブルク市との相互理解のさらなる促進
  （友好都市提携20周年）
- 地域文化の発展への寄与
- 市民文化によるエリアマネジメントの可能性を提示

→現代都市が抱える環境・社会問題等の解決に資する
大阪市の都市政策における新たな課題への示唆